

都道府県別面積、民有地等

面積は10月1日、民有地は1月1日、その他の項目は3月31日現在の数字である。

都道府県	面積	民 有 地					自然公園 面積	都市公園 面積	緑地面積
		総 数	(内) 宅 地	(内) 田	(内) 畑	(内) 山 林			
昭和 54 年	377 682.00	161 189	11 507	30 422	25 820	75 667
55	377 708.09	161 100	11 727	30 323	25 793	75 585
56	377 727.57	161 037	11 949	30 200	25 755	75 630	...	42 507	6 302
57	377 748.43	161 761	12 189	30 114	25 911	76 283	5 293 876	45 130	6 750
昭和 58 年	377 765.27	161 507	12 384	30 017	25 879	76 135	5 319 689	47 222	7 169
北海道	83 519.25	28 489	775	2 599	7 637	11 297	838 013	5 321	1 345
青森県	9 616.93	3 915	210	912	754	1 407	116 296	619	55
岩手県	15 278.42	7 321	218	962	826	4 090	71 977	398	16
宮城県	7 291.52	3 318	280	1 136	385	1 402	189 963	1 178	99
秋田県	11 611.20	3 798	183	1 323	283	1 220	122 973	646	45
山形県	9 326.60	3 521	182	1 045	391	1 536	156 537	598	101
福島県	13 783.39	6 011	292	1 169	920	3 086	170 687	845	31
茨城県	6 093.65	4 166	470	994	1 182	1 277	88 189	815	162
栃木県	6 413.79	3 327	298	1 006	475	1 317	132 695	865	117
群馬県	6 355.61	2 562	288	340	738	955	90 350	1 388	83
埼玉県	3 799.32	2 360	502	523	669	536	120 393	1 667	264
千葉県	5 145.72	3 593	522	964	740	1 074	27 887	1 627	258
東京都	2 160.64	1 089	512	16	147	336	73 598	2 854	662
神奈川県	2 401.18	1 348	489	89	261	371	50 895	1 561	299
新潟県	12 578.41	4 948	341	1 742	433	2 175	328 569	766	30
富山県	4 252.18	1 428	173	697	74	415	117 348	599	70
石川県	4 197.30	1 637	140	476	143	799	49 693	575	22
福井県	4 191.22	1 662	113	448	63	981	61 388	634	91
山梨県	4 463.48	1 292	111	157	305	617	128 311	249	25
長野県	13 584.62	4 751	305	782	839	2 165	276 187	838	83
岐阜県	10 595.75	4 679	257	568	240	3 360	188 007	727	18
静岡県	7 773.02	4 286	421	402	667	2 435	99 152	1 051	123
愛知県	5 135.92	2 778	631	685	492	792	89 527	2 351	788
三重県	5 777.08	2 930	238	601	261	1 712	206 903	590	96
滋賀県	4 016.00	1 726	158	602	73	815	146 288	288	67
京都府	4 612.89	1 616	174	320	110	944	7 796	743	84
大阪府	1 866.85	900	437	181	56	174	11 708	2 897	783
兵庫県	8 376.06	4 190	432	849	149	2 567	159 904	2 365	216
奈良県	3 692.15	1 470	110	245	84	981	63 327	825	3
和歌山県	4 723.78	2 503	105	226	190	1 946	42 771	266	64
鳥取県	3 492.65	1 399	80	297	163	695	44 716	245	29
島根県	6 628.22	3 262	99	468	189	2 404	41 201	455	-
岡山県	7 089.33	3 649	257	761	304	2 185	71 232	898	119
広島県	8 464.57	4 022	263	610	295	2 706	34 396	1 244	122
山口県	6 103.60	3 161	212	599	191	2 014	40 499	820	112
徳島県	4 145.20	1 851	94	255	197	1 275	38 850	221	43
香川県	1 881.50	1 163	130	332	151	514	16 088	424	75
愛媛県	5 670.52	3 071	171	355	464	2 027	41 195	775	89
高知県	7 107.03	3 253	74	295	175	2 652	47 792	212	13
福岡県	4 955.11	2 964	480	862	327	1 017	90 231	1 827	103
佐賀県	2 433.06	1 456	102	495	227	499	27 951	350	40
長門県	4 110.06	1 845	144	302	480	739	74 778	719	2
熊本県	7 407.29	2 962	228	784	656	984	155 837	521	10
大分県	6 336.44	2 360	154	513	337	980	174 219	405	133
宮崎県	7 734.72	2 328	166	437	462	1 006	93 309	909	156
鹿児島県	9 163.44	4 050	261	569	1 189	1 569	74 266	745	16
沖縄県	2 250.87	1 098	101	27	484	88	25 797	304	9

第 2 章
気 象

第2章 気象

昭和58年は日本の南海上の太平洋高気圧が例年になく強まり、西日本に4月、8～9月に異例の高温をもたらした。一方6月頃から北極の寒気が北日本を中心に流れこみ7月の梅雨明け頃まで低温傾向となった。このように本年の日本は地域的には南北のコントラストの強い、また季節的には極端に変動の大きな天候となった。

特徴的な天候は、①前半暖冬・後半並、②4月の異常高温、③猛暑と残暑、④秋雨前線と台風10号による大雨、⑤早い冬の便り、等があげられる。

本年の梅雨は6月12日～7月25日の43日間で陽性型であった。この期間の総降水量は336mmで平年の89%となった。また台風は6月25日の第1号以来23個発生、その内第5号と第10号の2個が上陸した。

1 月

気温の変動は大きく、上旬中頃と下旬後半は3月中頃の暖かさ、中旬末より下旬後半は強い冬型気圧配置となり、21日大阪で今冬初めて永点下を記録したが、その他の日は冬型気圧配置となっても長続きせず、温暖な月であった。

2 月

昨年秋以来の温暖傾向は上旬まで続いた。中旬以後は太平洋高気圧もやや南下して、ようやく寒気も入りやすくなり寒い日が多くなった。天気は気圧の谷の通過後冬型気圧配置となり、その後移動性高気圧におおわれるという周期的な変化をしたが、18日～19日にかけて強い冬型気圧配置となり季節風が強く、大阪で最大瞬間風速西、30.1m/sを記録した。

3 月

曇雨天の日が多く、特に下旬後半は日本の南海上に前線が停滞し雨の日が続いた。2日に低気圧が日本海で発達したため、平年より4日早い春一番となった。

大阪における桜(そめいよしの)の開花は3月31日で平年より1日早く、昨年より8日遅かった。

4 月

月平均気温は、ほぼ全国的に平年に比べかなり高目に経過、大阪も平年より2.0℃高かった。上旬末より中旬にかけて前線が南海上に停滞したためずっと天気が続いた。

しかし下旬は移動性高気圧におおわれ晴天の日が多く、気温も高くなり特に25日～29日は最高気温が25℃以上の夏日となった。

5 月

気温は4月に引き続き高目に経過した。上旬と下旬の天気は周期的に変化したが、中旬半ばに低気圧が発達しながら近畿北部を通過したため府下各地とも60mm～100mmの雨が降った。しかしそれ以後は少雨傾向だった。

6 月

少雨傾向は上旬一杯続いた。特に1日～10日夕方までは

一滴の雨も降らなかった。12日に気圧の谷が接近し、梅雨前線が北上したため、平年より4日遅い梅雨入りとなった。その後梅雨前線の影響で降水量が多かったが、下旬は南海上に停滞することが多く降水量は少なかった。

7 月

太平洋高気圧の勢力が弱く、オホーツク海高気圧の勢力が強かったため梅雨前線は南海上に停滞することが多かった。このため梅雨期間中の気温は低目に経過した。また、降水の時間帯が夜半から朝方にかけて多かったため日照時間は比較的多かった。7月25日に平年より8日遅く梅雨明け、以後夏型気圧配置が強まり、昨年の低温とは違って変わって暑い夏となった。

8 月

この月は非常に暑かった。15日大阪の最高気温38.5℃は高温第1位(1933年以来)を記録、また日最低気温25℃以上(熱帯夜)の日も27日あった。月半ばまでは太平洋高気圧におおわれ猛暑となった。16日～17日にかけて台風第5号が紀伊半島沖を通り、瀬美半島に上陸したが近畿地方への影響は小さかった。下旬前半一時気温は下がったがその後再び暑さがぶり返した。

9 月

初めは太平洋高気圧におおわれ残暑がきびしく、後半は秋雨前線の活発化と台風第10号で大雨が降った。

上旬は残暑がきびしかったが、中旬になり暑さも和らいだ。下旬は秋雨前線が西日本に停滞したため雨天が続いた。28日長崎市付近に上陸した台風第10号と秋雨前線の活発化のため25日～28日にかけて府北部を中心に300mmを越す大雨が降り、交通や農業関係にも被害が出た。

10 月

気温は前半高目に、後半低目に経過し秋の深まりは早かった。上旬から中旬にかけて天気は周期的に変化した。10日夜から11日朝にかけて台風第13号紀伊半島沖を通過したがほとんど影響なかった。下旬は大陸からの寒気流入のため気温の低い日が多く、31日は今秋一番の冷え込みとなった。

11 月

中旬からは冬型気圧配置の日が多く、季節風も強まり寒くなった。月降水量は平年の22%と少雨であった。

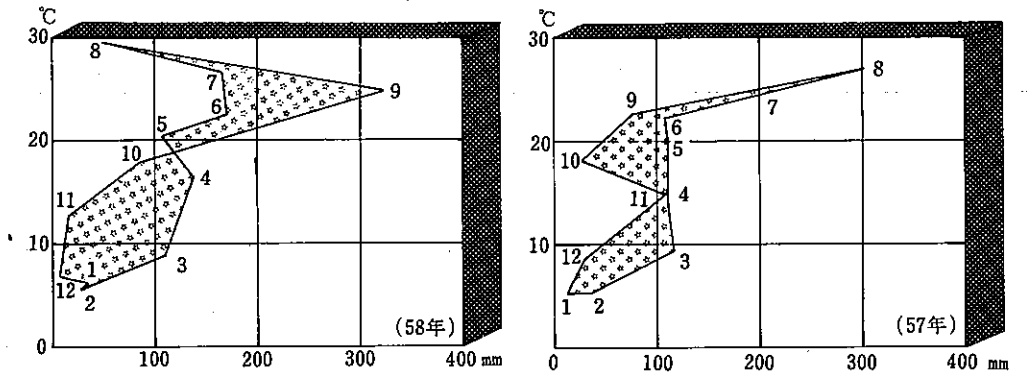
上旬の天気は周期的に変化した、中旬以降冬型気圧配置が度々強まり、29日大阪で平年より2日遅く、昨年より8日早く初霜を観測した。

12 月

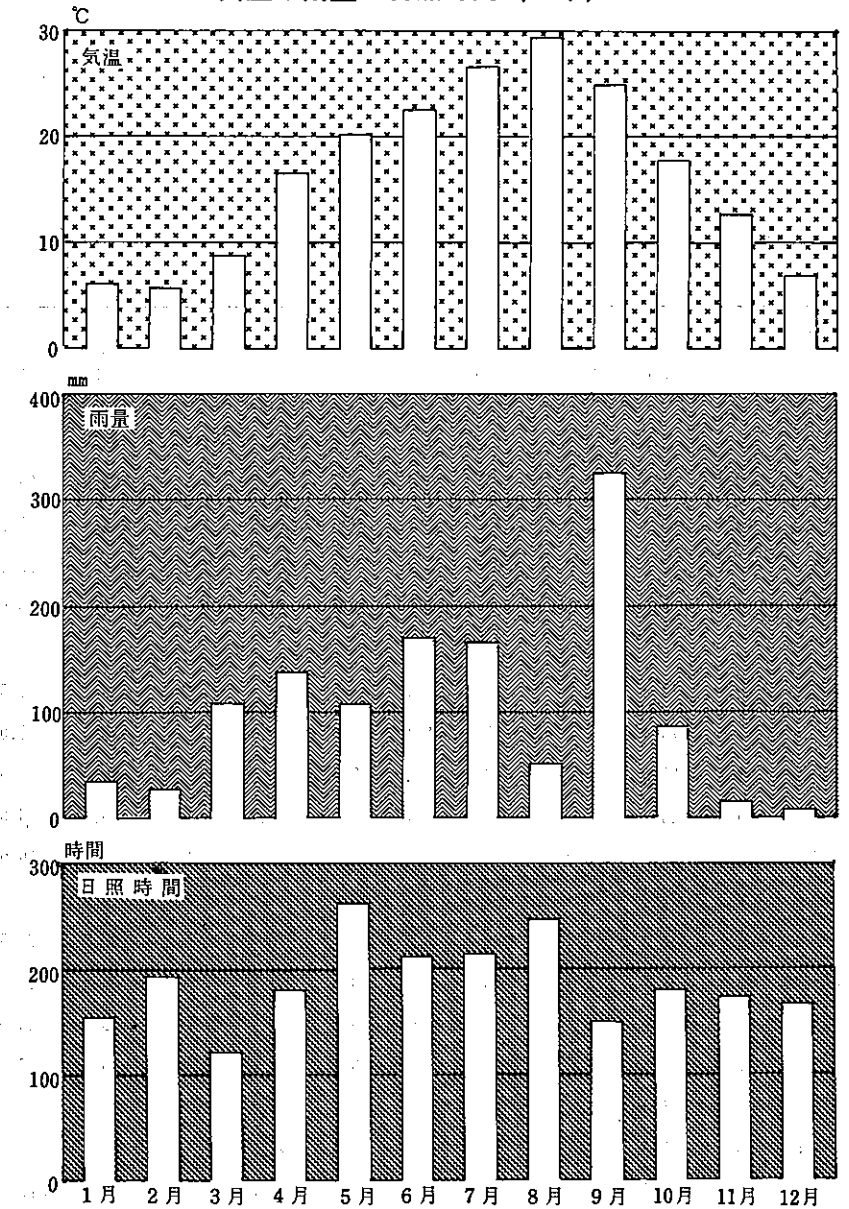
冬型気圧配置の日が多く、特に後半は寒かった。また前月に続き少雨傾向であった。

大阪では13日に初氷、24日に平年より4日早く初雪、28日には1cmの積雪を観測(積雪状態となったのは1947年以来)、寒さのきびしい年の瀬となった。

気温と雨量の関係



気温と雨量と日照時間 (58年)



第 1 表

大 阪 管 区 気 象 台

本表は「地上気象観測原簿」によるものである。

Table with 5 columns: 位置, 経緯度 (東経, 北緯), 海面上高, 創立年月日, 主要材器の位置. Includes data for 大阪市東区法円坂町6-25.

資料 大阪管区気象台調査課

第 2 表 気 象 概 況

本表は大阪管区気象台での観測概況である。平均気温は1日8回の平均値から、平均湿度は相対湿度ともよび1日4回の測定値からその日の平均値が計算される。雲量は全天雲に被われた場合を10とし、雲のない状態を0とした基準、平均風速は0時~24時の全風程から求められている。平年各欄のうち※印は過去における最高最低及び最大値である。

Table with columns: 年月, 平均気圧(海面), 気温(平均, 最高値, 最低値), 平均湿度, 雲量, 風速(平均, 瞬間最大, 風向), 降水量(総量, 最大時量), 日照時間総数, 有感地震. Includes monthly and annual data.

資料 大阪管区気象台「大阪府気象年報」

第 3 表 天 気 の 概 況

本表は大阪管区気象台での観測結果による日数である。ただし、55年以前は雲量<2.5、雲量≥7.5の数値である。

Table with columns: 区分, 昭和55年, 昭和56年, 昭和57年, 昭和58年 (1月-12月). Includes data for precipitation, snow, fog, etc.

資料 大阪管区気象台「大阪府気象年報」

第 4 表 地域気象観測所の平均気温

本表は府下の各地域気象観測所において観測したものである。

Table with columns: 観測所, 昭和55年平均, 昭和56年平均, 昭和57年平均, 昭和58年 (1月-12月). Includes data for various locations like 能勢, 枚方, etc.

資料 大阪管区気象台「大阪府気象年報」

第 5 表 地域気象観測所の降水量

本表は府下の各地域気象観測所において観測したものである。

Table with columns: 観測所, 昭和55年総数, 昭和56年総数, 昭和57年総数, 昭和58年 (1月-12月). Includes data for precipitation at various locations.

資料 大阪管区気象台「大阪府気象年報」

第 6 表 全国気象官署別気象概況(昭和57年)

本表の「相対湿度」は毎日3時、9時、15時、21時の4回の観測を、「気温」はこの4回に更に6時、12時、18時、24時を加えた合計8回の観測値を算術平均したものである。「快晴日」は日平均雲量2.5未満をいい、「最大風速」は任意の10分間平均風速の最大値である。

Table with columns for 気象官署, 気温 (annual, max, min, average), 相対湿度, 日照時間, 降水量 (annual, total, max), 快晴日数, 最大風速, 最深積雪. Rows list various prefectures and cities like 北海道, 青森県, 岩手県, etc.

第 3 章
人 口